ことから引き合いが来ているので、そういったものを含めて明るい見通しとしたい。

問 「総合計画」やそれに基づく「観光振興計画」などに沿ったメリハリのある予算付けが出来なかったのか。

答 メリハリを付けるほど、余った予算が無いのが現状だと思う。

問 新校舎の地域交流センターに、各小学校の足跡を展示するスペースを作って頂きたい。

答 各小学校の校歌や歴史も一緒に展示する場所を作りたいと思っている。

問 バイオマスタウン構想は終わっている気がする。新たに生ごみの堆肥化、新エネルギー導入の検討をしては。

答 生ごみの堆肥化は、検討してきたいと思う。

問 湯沢学園開校に向け皆で取り組んで、ソフト面を充実した中でスタートして欲しいが。

答 教育委員会、職員、議員も含め、できて良かったなと思える施設になるようお願いしたい。

問 現在、奨学貸付金は月額5万円だが、大学に通わせると月10万円単位の生活費がかかる。返済金の滞納も少ないので予算の増額をしても良いのではないか。

答 湯沢町から通学できるよう、JR東日本にお願いすることを考えてみたいし、奨学金の額についても検討したい。

平成25年度　一般

賛成討論

角谷　勉

町長や当局に100%白紙委任するものではありません。3点要望します。

①税収は、6500万円減収が予想される中で、ノリタ光学跡地の除染事業に4億6300万円が計上された。ノリタ光学跡地の除染に異議を唱えるものではないが、湯沢高原の再整備、学校建設の6億円増額と、高額な歳出が続いている。

「4億6000万円の歳出が財政運営に影響はないのか」という質問に対して、町長は「財政調整基金を6億3500万円取り崩し、残高は約13億円となり、残高比率は31%となる。県下町村は平成22年度数値で29・8%であり、財政的な余力は他自治体と同程度にある」と回答されました。

しかしながら、平成23年度の県下町村の財政調整基金の残高比率は、県下5町村の平均は36%と、当町よりも5%ほど高い。汚染土壌をすべて取り除くわけではなく、完全に汚染事業が完了する保障はない。企業誘致が可能になるまでの総額が見えない。

さらに資材や人件費の高騰により、学校の建設費も不透明である。「財政的な余力は他自治体と同程度」という認識は改めて財政運営にあたって欲しい。

②観光産業の冷え込みを打開するために、湯沢町観光振興計画を策定したが、その振興策がほとんど予算に反映されない。逆に、町観光協会への観光宣伝費は大幅な減額である。重要課題である観光の振興に積極的に取り組んでほしい。

③施政方針にて「国保財政の安定維持のために、国保税の引き上げにご理解をいただきたい」と述べている。新政権にかわり、デフレ脱却が進むかのようにいわれているが、先行きは不透明である。

しかも、地方へはタイムラグがあり、景気回復はまだ先のことと考える。1000万円ほどの増税を予定しているが、一般会計からの繰り入れで対応して欲しい。

以上3点を要望して賛成討論を終わります。

賛成討論

今村定一

平成25年度一般会計予算は近年にない大型予算であります。主たるものは統合文教施設の建設費であります。予算外はノリタ跡地の除染処理費の計上であります。企業誘致の後遺症でこれまで何ら手を付けられなかった町にとっては負の遺産です。

町長は観光に依存しない町づくりを進める。これはイコール企業誘致だと、取り組まれてこられたと思います。その過程で越えられない現実が汚染土地のレッテルであります。直接行動し何ともならない現実に直面した結果の判断と、評価したいと思います。2年後、3年後が楽しみであります。

施政方針に沿った6項目の町づくり、その理念を町民共有の思いとして、生かして頂きたいと思います。

平成25年度一般会計予算を新生湯沢町の第一歩と受け止め評価すると共に賛成を致します。